第３回　国際標準化対応支援委員会／運営委員会　国際会議報告書

資料 No.	＜TC40 関係＞国際会議報告書
3-3／TC40-①	IEC/TC40「コンデンサ及び抵抗器」国際会議出席報告書 20080609－20080612（於：札幌）
3-3／TC40-②	IEC/TC40「コンデンサ及び抵抗器」国際会議日本開催経費収支報告書（於：札幌）
資料 No.	＜TC47 関係＞国際会議報告
3-3／TC47-①	TC47/WG2「半導体デバイス環境試験方法」アトランタ国際会議報告書 20080521-20080522
資料 No.	＜SC47E 関係＞国際会議報告書
3-3／SC47E-①	SC47E/WG1「個別半導体／センサ」東京会議日本開催報告書 20080618
3-3／SC47E-②	SC47E/WG1「個別半導体／センサ」東京会議日本開催経費収支報告書 20080618
資料 No.	＜SC62A 関係＞国際会議報告書
3-3／SC62A-①	SC62A/MT23「共通事項：EMC」アンドーバ国際会議報告書 20080624-20080626
3-3／SC62A-②	SC62A/JWG6「在宅医療機器」ロンドン国際会議報告書 20080616-20080620
資料 No.	＜TC80 関係＞国際会議報告書
3-3／TC80-①	TC80/WG6「デジタルインタフェース」ストックホルム国際会議報告書 20080623-20080625
3-3／TC80-②	TC80/WG14「固定局／航法支援 AIS」エディンバラ国際会議報告書 20080811-20080815
資料 No.	＜TC87 関係＞国際会議報告書
3-3／TC87-①	TC87/WG8「超音波／音場測定」プラハ国際会議出席報告書 20080624-20080626
3-3／TC87-②	TC87/WG9「超音波／パルスエコー超音波診断装置」プラハ国際会議出席報告書 20080623
3-3／TC87-③	TC87/WG14「超音波／超音波照射パラメータの測定」プラハ国際会議出席報告書 20080625
資料 No.	＜TC93 関係＞国際会議報告書
3-3／TC93-①	TC93/WG2「デザインオートメーション　設計技術言語」アナハイム国際会議報告書 20080608-20080612
資料 No.	＜SC31 関係＞国際会議報告書
3-3／SC31-①	SC31「自動認識及びデータ取得技術」横浜国際会議出席報告書　20080521-20080522
3-3／SC31-②	SC31「自動認識及びデータ取得技術」国際会議日本開催経費収支報告書 20080521-20080522

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／TC40-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 7 月 10 日

（報告者記載）予算番号：H20TC40①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：青木仁／KOA㈱　報告書作成者氏名：　青木仁　（会社名）KOA㈱

出席会議名(半角)	区　分		組織番号 (TC/SC/TA)	TC40 (半角)
TC40 Prenary	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他			
WG36	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		名　称 (日本語)	電子機器用コンデンサ及び抵抗器
WG39	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他			
MT60115/60384	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☒その他		☐単独開催　☒同時開催	
開催期日	2008 年 6 月 9 日 ～ 2008 年 6 月 12 日			
開催場所	（国名）日本	（都市名）札幌市		
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	K.B.Saarinen/R.Drenthen	幹事国　オランダ		
参加国及び参加人数	7 ヶ国、主な国名 フィンランド、オランダ、ドイツ、ベルギー、英国、米国、日本、参加人数（25）			
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 土生正(村田製作所)，大島寛(ニチコン)，稲垣茂樹･和田友英(ﾊﾟﾅｿﾆｯｸｴﾚｸﾄﾛﾆｯｸﾃﾞﾊﾞｲｽ)，尾村博幸(日本ケミコン)，中村一重(ルビコン)，上村尚史(住友スリーエム)，楢岡浩喜(松下電器産業)，青木仁(KOA)，池上孝(太陽誘電)，笠原良雄(岡谷電機)，勝野尊文･塚田虎之(ローム)，細川･後藤(JEITA)，寺田(経済産業省)			

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

年１回の TC40 プレナリ会議と 2 つの WG、2 つのメンテナンス会議（抵抗器及びコンデンサ）の同時開催で、1999 年の京都会議以来 9 年ぶりの日本開催となり、7 ヶ国 25 人が参加し活発な議論が行われた。

・TC40 Prenary：HEV 向け電気二重層コンデンサの規格化における TC69（電気自動車）とのリエゾン提携及び鉄道用電気設備向け電解コンデンサの規格化における TC9（鉄道用電気設備）へ JWG の提案を行う。導電性高分子アルミ電解コンデンサの NP 提案を行った。次回の開催は、2009 年 9 月英国ケンブリッジとなる。

･WG39：抵抗器とコンデンサの規格間の整合化を図る WG である。環境試験 IEC 60068-2-1（低温）及び IEC 60068-2-2（高温）の改訂に伴う試験 Aa, Ba から Ab, Bb への変更を決定した。品質認証手順（Annex Q）の再構築及び故障率水準（航空・宇宙対応）及び硫化水素など腐食性ガス試験の導入が将来課題として審議された。

・WG36：部品包装に関する WG で、日本提案のプレスキャリアテープ及び 4mm 幅エンボステープ規格が審議され FDIS へ進む事になった。包装容器表示への二次元シンボルの適用が議論されたが，多様なシンボルが ISO22742 に規定されており選択が難しい事から適用は却下された。IEC 60286-3 表面実装用テーピングの再構築が審議され、日本提案に合意を得た。IEC 60749-20 に規定する防湿包装の適用を Future Work として検討する。

・MT60115：抵抗器関係のメンテナンス。IEC 60115-1 固定抵抗器の品目別通則の改訂で、IEC 61340-3-1（HBM）ESD 試験や IEC 60068-2-82 ウイスカ試験などを導入し、車載機器などのプロ用途からの要求に応えられる内容とし、FDIS へ進めた。また、IEC 60115-8 表面実装用固定抵抗器の品種別通則の改訂が審議され CDV を終了した。

・MT60384：コンデンサ関係のメンテナンス。IEC 60384-14「電磁障害防止用コンデンサ」の CD 文書メンテナンスを行った。UL-1414 との整合化がポイントで、耐炎性及び試験電圧の引き上げが議論となり技術的な課題がまだ多く残っており、次のステージを 2nd CD とすることになった。

・講演会：TC40 の活動に関連のある情報提供及び共有の場として、TC69（電気自動車用電気二重層コンデンサ）、TC9（鉄道用電解コンデンサ）、TC91（第２世代鉛フリーはんだ）、METI（日本の国際標準化活動）、DE（車載用途での品質評価）などの報告があり活発な質疑が行われた。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

㈳電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／TC40-②（事務局記入）　　様式 9
国際標準化対応支援委員会　御中

提 出 日： 2008 年 8 月 6 日
予算番号：H20TC40①

国際会議日本開催
経費収支報告書

1．組　　織：　番　号　　TC40
　　名　称（日本語）　電子機器用コンデンサ及び抵抗器

2．会　　議　名：　IEC TC40 国際会議（☐単独開催　☒同時開催）
　　☒TC　☐SC　☐TA　☒WG　☐PT　☒その他

3．開　催　期　日：　2008 年 6 月 9 日 ～ 2008 年 6 月 12 日

4．開　催　場　所：　札幌ＡＣＵ

単位:円

収 入 の 部		支 出 の 部	
科　　目	金　額	科　　目	金　額
国際標準化対応支援委員会	671,200 円	会議費(会議室･備品利用代他)	806,260 円
臨時会費（委員長宿泊代）	32,000 円	会議費(ｳｪﾙｶﾑﾊﾟｰﾃｨｰ、昼食代)	237,295 円
受動部品標準化専門委員会	439,245 円	通信費（資料等の送付代）	5,790 円
実装部品包装標準化専門委員会	200,000 円	旅費交通費(ﾚｸﾁｬｰﾒｰﾃｨﾝｸﾞ講師)	222,100 円
	円	旅費交通費(送迎ﾊﾞｽﾁｬｰﾀ代)	71,000 円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
合計（a）	1,342,445 円	合計（b）	1,342,445 円
		（a）－（b）	0 円

補助限度額:［会議出席者数（日本人登録メンバー 10 人＋外国人 12 人）］×会議開催日数 4 日×1.5 万円＝1,320,000 円

補助請求金額　671,200 円
［補助基準･運用規定の補助率（50 %）。上限は 300 万円。］

以上の通り報告致します。　　2008 年 8 月 6 日

申請責任者：　土生正

※本報告書は、(様式4)「国際会議報告書」に添付して下さい。

（TSC-06 様式 2007.9）

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／TC47-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 7 月 31 日

（報告者記載）予算番号：H20TC47①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：田中政樹　報告書作成者氏名：　田中政樹　（会社名）(株)ルネサステクノロジ

出席会議名(半角)	区　分	組織番号(TC/SC/TA)	TC47WG2 (半角)
TC47WG2	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称(日本語)	半導体デバイス環境試験方法
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2008 年 5 月 21 日 ～ 2008 年 5 月 22 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）アトランタ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Dr. J. Lynch	幹事国　韓国	
参加国及び参加人数	3ヶ国、主な国名 英国、米国、日本、参加人数（5）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○田中政樹（ルネサステクノロジ）、 ○若井伸之 (東芝)、 和田哲明（松下電器産業）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

背　景：半導体の信頼性試験方法 IEC60749 の個別試験方法の制定審議とメインテナンスを実施中
目　的：表面実装デバイスの鉛フリー実装に向けたはんだ耐熱性試験(IEC60749-20)改訂の CDV 各国コメント、湿度に弱い表面実装デバイスと防湿包装の取り扱い規格(IEC60749-20-1)制定の CDV 各国コメントに対する対策、２件の日本提案 NP に関する方針検討、各国委員で分担している 10 件の個別試験方法のメインテナンス案の審議を行った。また、静電破壊試験は TC-101／WG6 との JWG で分担して審議しているが、今後審議が始まる CDM（Charged Device Model）試験方法についての TC101 との分担方法を検討し、TC101 は共通項目、TC47 は個別試験方法の審議を進める旨の案を作成し、JWG に提案することになった。また、TC47/WG2 終了後、TC91/WG3 との JWG が開催され、現在進行中の試験方法審議に関し、情報交換を行った。
成　果：IEC60749-20 改訂のＣＤＶ対策は、日本コメントが全て採用された。IEC60749-20-1 の CDV 対策は、日本の防湿包装条件等を追加するコメントを出しており、殆どが採用され、さらに日本の保管ﾚﾍﾞﾙの表面実装半導体の温度、湿度を変えた場合の保管条件表、日本使用されている湿度インジケータの例を追加することになり、国内で検討して提出することとなった。
問題点：表面実装デバイスや防湿包装の条件は国内では十分に統一できていないため、JEITA のはんだ耐熱試験規格の条件の前提となっている条件に基づいてコメントしており、詳細な条件について米国条件内容に十分に対抗できないことが課題。
次回開催日：２００８年１０月２７日～　場所：東京　TC47 及び各 SC、各 WG を開催

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／SC47E-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 8 月 4 日

（報告者記載）予算番号：H20SC47E①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：石井　一史　　報告書作成者氏名：　大和田　邦樹　（会社名）帝京大学

出席会議名（半角）	区　分	組織番号（TC/SC/TA）	SC47E（半角）
SC47E/WG1	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称（日本語）	個別半導体
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催　□同時開催	
開催期日	2008 年 6 月 18 日 ～ 200 年　月　日		
開催場所	（国名）日本	（都市名）東京	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	ｺﾝﾍﾞﾅ：Prof．Park(韓国)	幹事国　韓国	
参加国及び参加人数	2 ヶ国、主な国名 日本・韓国、参加人数（9）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 大和田邦樹（帝京大学）、梅田章（産業技術総研）、竹内南（マイクロマシンセンター）、高橋正行（セイコーNPC）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

【背景・目的】
半導体温度センサ、半導体加速度センサ、センサジェネリック仕様書、半導体圧力センサについて、コメント審議、文書進捗状況確認を行なう。

【成果】
（1）半導体温度センサ
2nd CD に対する日本コメント 5 件を審議した。いずれも用語定義に関するもので、温度センサ特有でなくセンサ一般の用語 5 件をセンサジェネリック仕様書に移すべきというコメントが採択された。
（2）半導体加速度センサ
6/3 開催の SMB ジュネーブ会議で決定した、半導体加速度センサに関する IEC/SC47E/ISO/TC108 のコンフリクト問題に関する SMB Decision 132/13 (SMB/3764/DL) が紹介された。SC47E 国際議長が提案した解決案を ISO/TC108 に検討させるよう TMB に促すものである。TMB からの回答期限は切られていない。<=【問題点】
（3）センサジェネリック仕様書、半導体圧力センサ
いずれも、現在 CDV 文書投票中のため、文書進捗状況確認のみで、具体的な議論は行なわれなかった。

【今後の NP 提案予定】
韓国から、半導体湿度センサ（2 回目）、フローメータ等が NP 提案される予定が紹介された。

【次回予定】
2008 年 10 月 28 日～29 日、東京で開催予定。

※なお、申請時に計画していた SC47E/WG2 会議（6/17 予定）は、唯一の海外参加国である中国が、四川大地震による海外渡航制限が解けず来日できなかったため、開催できなかった。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

㈳電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／SC47E-②（事務局記入）　　様式 9
国際標準化対応支援委員会　御中

提 出 日：	2008 年 8 月 4 日
予算番号：	H20SC47E①

国際会議日本開催
経費収支報告書

1. 組　　織：　番　号　　SC47E
　　名　称（日本語）　個別半導体

2. 会　　議　名：　SC47E/WG1（☒単独開催　☐同時開催）
　　☐TC　☐SC　☐TA　☒WG　☐PT　☐その他

3. 開　催　期　日：　2008 年 6 月 18 日 ～ 200 年　月　日

4. 開　催　場　所：　東京　(社)電子情報技術産業協会　会議室

単位:円

収 入 の 部		支 出 の 部	
科　　目	金　額	科　　目	金　額
国際標準化対応支援委員会	35,497 円	会議費	58,000 円
SC47E 国内委員会	35,496 円	飲食費	12,993 円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
合計（a）	70,993 円	合計（b）	70,993 円
		（a）－（b）	0 円

補助限度額:［会議出席者数（日本人登録メンバー2 人＋外国人 5 人）］×会議開催日数 1 日×1.5 万円＝105,000 円

補助請求金額　35,497 円
［補助基準･運用規定の補助率 (50 %)。上限は 300 万円。］

以上の通り報告致します。　　2008 年 8 月 4 日
申請責任者：　大芝　克幸

※本報告書は、(様式4)「国際会議報告書」に添付して下さい。

（TSC-06 様式 2007.9）

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／SC62A-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 7 月 31 日

（報告者記載）予算番号：H20SC62A⑤

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：市川 義人　報告書作成者氏名：　松下電器産業㈱　（会社名）冨沢修幸

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62A/MT23 (半角)
SC62A/MT23	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	共通事項：EMC
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	
開　催　期　日	2008 年 6 月 24 日 ～ 2008 年 6 月 26 日		
開　催　場　所	（国名）アメリカ	（都市名）アンドーバ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	アメリカ	幹事国　アメリカ	
参　加　国及び 参　加　人　数	5 ヶ国、主な国名 アメリカ、ドイツ、スウェーデン、日本、参加人数（10）		
日　本　人 出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ 市川 義人(オリンパスメディカルシステムズ)、○ 中田 和成（(株)東芝）、○ 冨沢 修幸（松下電器産業(株)）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1. 背景と目的
   1)結合規格 IEC 6XXXX のエミッション、イミュニティ要求事項への日本コメント・提案の審議
   2)結合規格 IEC 6XXXX の審議
2. 審議結果
   1)前回パリ会議に続き事前に日本コメント・提案の審議を行い、下記(主要な項目のみ記載)MT23 回答となった。本回答について国内委員会に報告、継続して日本コメント・提案することとした。
   (1)FDA における EMC レポートに関し、発生件数が 2005 年から減少傾向にあり第二版強制以降減少しているのではないかとの日本コメントへの MT23 回答
   →2005 年以降のデータは集計途中のデータであり、2005 年以降の FDA データベースを再度集計する必要があるが、減少傾向ではない
   (2)IEC 60601-1-2 と IEC 6XXXX は異なる規格として分けるか、結合規格とする場合には適用範囲を明確に分けるべきとの日本提案への MT23 回答 → パリ会議でも示したように適用範囲を明確に分ける。
   (3)リスクマネジメントを取り込んだイミュニティ試験レベル、判定基準の決定方法の日本提案への MT23 回答
   →キーとなる要素である環境のパラメータをどのように扱うかなど検討が必要であるが親規格である IEC 60601-1 第三版で扱われるリスクマネジメントを取り込む日本提案は、非常に興味深い提案であり今後の審議の中でさらに検討を進める。
   (4)単一故障条件をリスクマネジメントプロセスで考慮する例を参考 Annex に記述した方が良いとの日本コメントへの MT23 回答 → 合意
   (5)30V/m の試験を実現するための設備導入に多額の費用が必要であり、試験が実現できるのか各国で調査をするべきであるとの日本コメントへの MT23 回答 → Near field 試験など、他の試験方法を検討してはどうか。
   2)結合規格 IEC 6XXXX の審議
   11 月までに 80%を完成させ、新目標として 3 月までに NWIP を提出することが示され、規格審議が行われた。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／SC62A-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 7 月 31 日

（報告者記載）整理番号：H20SC62A⑳

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：市川義人　報告書作成者氏名：中谷 敬　（会社名）日本光電工業株式会社

出席会議名(半角)	区分	組織番号(TC/SC/TA)	SC62A/JWG6 (半角)
SC62A/JWG6	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称(日本語)	在宅医療機器
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	

開催期日	2008 年 6 月 16 日 ～ 2008 年 6 月 20 日	
開催場所	（国名）イギリス	（都市名）London
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	H. Lasthaus, J. Hedley-White	幹事国 アメリカ
参加国及び参加人数	9ヶ国、主な国名 ドイツ、アメリカ、イギリス、オランダ、スイス、デンマーク、フィンランド 台湾、日本、参加人数（24）	
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 中谷 敬(日本光電工業株式会社)、○ 石田 伸司(テルモ株式会社)	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

在宅医療機器に関する国際規格で、IEC60601-1 の副通則 IEC 60601-1-11 を制定するための国際会議に参加した。この副通則が対象とするのは，医療専門家の管理下に無い状態で使用する家庭用医療機器である。家庭や介護施設で使用する医療機器（血圧計、体温計、酸素濃縮器、ネブライザ、血糖測定器、在宅用人工呼吸器など）が対象である。

昨年末に回付された Committee Draft(CD)に対して、各国からのコメントが提出された。今回の会議では、このコメントについて討議し、2nd CD の原案を作成した。次回は、2009 年 1 月京都にて開催予定で、2nd CD を審議した上で Committee Draft for Vote(CDV)案を作成する。

在宅用医療機器は、安定した環境で使用される病院用機器と異なる。また、操作者も専門知識を持たないことが想定される。過去 2 回の会議同様、今回もこの点に審議が集中した。一部条件が緩和された要求事項もあるが、大きな変更はなかった。これまで明確でなかった環境条件に関する試験方法が明確に規定された。主な討議事項について記す。

(1) 使用前保管条件に対する要求事項がやや緩められ、－30℃、RH15% ～ ＋70℃、RH93%と規定され、試験条件が明確になった。

(2) 使用環境条件は、5～40℃、RH15～93%、気圧 700～1060ｈPa である。低湿度や気圧を変化させての試験は容易ではなく、変更を求めたが、欧米諸国の反対で認められなかった。試験設備に関する調査を行い、次回会議でも問題提起する予定である。

(3) 分離可能なコンポーネントに、ロット No.又はバッチ No.を記載することになっていたが、日本から提出した記載例を討議した結果、要求事項から外すことになった。

(4) 移動中でも作動する機器を transit-operable と定義し、機器の移動可能性、移動中の作動を考慮した機械的強度を IEC/TR 60721-4-7 に基づいた 7M1～7M3 に分類した。

(5) 在宅用機器は、EMC も厳しい要求が必要との意見が提出されたが、EMC についての副通則 IEC 60601-1-2 の改定作業を見てから再検討することになった。

以上

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／TC80-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 7 月 17 日

（報告者記載）整理番号：H20TC80③

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：矢内　崇雅　　報告書作成者氏名：　田北　順二　（会社名）日本無線（株）

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC80 (半角)
WG6	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	デジタルインタフェース
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催　□同時開催	
開　催　期　日	2008 年 6 月 23 日 ～ 2008 年 6 月 25 日		
開　催　場　所	（国名）スウェーデン	（都市名）ストックホルム	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr S. Steier	幹事国　スウェーデン	
参　加　国及び 参　加　人　数	7 ヶ国、主な国名 英国、米国、ドイツ、スウェーデン、ノルウェー、日本、参加人数（16）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○田北　順二（日本無線）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1．背景

船舶搭載機器のデジタルインタフェースに関する規格作成委員会である。

2．目的

IEC 61162-1 用の新センテンスの審議、IEC 61162-3 及びイーサーネットを使用したインタフェースの検討、及び IMO（国際海事機関）で採択された INS 性能基準のためのインタフェースの審議を行う。

3．成果

1) IEC 61162-1

①NAVTEX 用センテンスの中の Note の誤記訂正

修正内容が適切かどうか、各国エキスパートの意見を求めることになった。

②PAS 103

AIS 基地局、AtoN 用のセンテンスの PAS103 の内容の審議を行った。

③ガリレオ受信機用センテンス

WG4A で審議中のガリレオ受信機用のセンテンスについて審議した。引き続き、WG14, WG4A と協議を継続することになった。

2) IEC 61162-3(NMEA2000)

IEC 61162-3 は、5 月に発行済である。NMEA2000 グループがアラートマネージメント用の PGN を検討しているとの報告と簡単な紹介があった。

3) アラート・マネージメント用インタフェース

IMO IBS コレスポンデンス G で審議中のアラートマネージメント用のインタフェースについて審議した。現在の IEC 61162-1 のままでは、正確にアラートデータの転送が困難ではないかとのことで、更に検討を加えることになった。

4) 軽量イーサーネット

軽量イーサーネットについては、CIRM 提案について審議し、基本的に受け入れられた。基本方針は、IEC 61162-1 のセンテンスを UDP, TCP/IP にて転送することである。UDP, TCP/IP アドレスについては更に検討を加えることになった。

5) 次回の会議予定　：2008 年 10 月 21 日～10 月 24 日、ドイツ・ボンにて開催予定

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／TC80-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 8 月 18 日

（報告者記載）整理番号：H20TC80⑪

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：矢内　崇雅　　報告書作成者氏名：　矢内　崇雅　（会社名）沖電気工業（株）

出席会議名(半角)	区　分	組織番号(TC/SC/TA)	TC80 (半角)
WG14	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称(日本語)	固定局/航法支援 AIS
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催　□同時開催	
開　催　期　日	2008 年 8 月 11 日 ～ 2008 年 8 月 15 日		
開　催　場　所	（国名）UK（ｽｺｯﾄﾗﾝﾄﾞ）	（都市名）エディンバラ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Alan Stewart/Peggy Browning	幹事国　UK	
参　加　国及び参　加　人　数	7 ヶ国、主な国名 日本、米国、UK、スウェーデン、ドイツ、ノールウェー、オーストリア、参加人数（20）		
日　本　人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○古山　賢二(日本無線)、○矢内　崇雅(沖電気工業)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

１背景　海上交通における航行安全、船舶識別及びセキュリティの有効手段として、AIS の普及促進と性能向上が IMO にて推進されている。この考えに沿って策定された IMO　PS をベースに IEC では船舶搭載、陸上設置及び救難捜索向け等の各種 AIS 規格を開発をしている。

2　目的　基地局 AIS 等の PI センテンスに関する WG6 での IEC61162-1　PAS103 の検討結果を受けて IEC62320-1 Ed.1　Addendum として回章されている CDV との精緻化検討、IMO　MSC83 にて PS が採択された AIS-SART IEC61097-14　Ed.1 の CDV（案）の作成作業と IEC61993-2　Ed.2　CD へのメンテナンスサイクルとしてのコメントの対応作業推進を図る。

3：成果：（1）AIS に関する現在推進している開発項目、①IEC61097-14　Ed.1　AIS-SART、②IEC62320-1　Ed.1 Addendum　基地局 AIS、③IEC61993-2　Ed.2、Class-A　AIS、④IEC62320-3　Ed.1　Repeater　AIS、⑤IEC62320-4　Ed.1　Limited　Base-station　AIS に加えて NP として航空機搭載用 AIS（特に救難捜索用航空機を意図した）及び Inland　AIS の開発を WG での推進項目することが確認された。

（2）IEC61097-14　Ed.1　AIS-SART の CDV（案）に向けた開発作業としては、80/539/CD として、2008 年 10 月 24 日締切で P メンバーからのコメントを待ってからでの CDV（案）の精緻化では IMO での SOLAS 船舶搭載期日と相違が出る事を想定して、2008 年 6 月 13 日からの海上実験結果と米国からの救難捜索にヘリコプター等の航空機を使用するため、50NM、3,000ft にて検出が出来る様に送信電力を考慮すべき等の P メンバーからの事前コメントを考慮して、CD の精緻化作業を実施した。又、次回会議として予定していた 2008 年 10 月 20 日からの会議は 2008 年 12 月 8 日の週に日程変更をし、6 月での海上実験にて実施できなかった海上状況と受信状況との相対関係の確認実験結果も含めて CDV（案）を作成することにした。

（3）IEC62320-1 Ed.1 Amendment　AIS Base-station に関する検討作業は 2008 年 6 月開催の WG6 での審議結果と回章中の CDV へのコメントを受けての作業が好ましいとの判断から、今回は審議作業を行わなず、次回とした。

（4）IEC61993-2　Ed.2 の改定作業は 2008 年 5 月の San　Diego 会議に引き続いてコメント表の記載項目の検討と CD への盛込み作業を実施。コメントへの対応は終了したが、本会議の検討過程にて再検討が必要な項目が確認されたため、次回の会議にて引き続き CD への盛込みを行い、TC80 事務局とで確認されているスケジュールである 2009 年 3 月の CDV 回章に向けた作業を推進する。

4　今後の会議予定：次回会議は 10 月 20 日～24 日ドイツ　コブレンツ、次々回会議は 2008 年 12 月 8 日の週の 2 日間程度を予定。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／TC87-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 8 月 5 日

（報告者記載）予算番号：H20TC87①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：木下　博之　　報告書作成者氏名：　内藤　みわ　（会社名）アロカ

出席会議名(半角)	区　分	組織番号(TC/SC/TA)	TC87 (半角)
TC87/WG8	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称(日本語)	超音波／音場測定
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2008 年 6 月 24 日 ～ 2008 年 6 月 26 日		
開催場所	（国名）チェコ	（都市名）プラハ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Rob Hekkenberg（オランダ）	幹事国　英国	
参加国及び参加人数	10 ヶ国、主な国名 米国・英国・ドイツ・日本・オランダ・イタリア、参加人数（30）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○内藤みわ（アロカ）、○山崎 聡(東芝ﾒﾃﾞｨｶﾙｼｽﾃﾑｽﾞ)、内山 進（東芝ﾒﾃﾞｨｶﾙｼｽﾃﾑｽﾞ）、梅村晋一郎（東北大）、工藤信樹（北大）、岸本眞治（日立ﾒﾃﾞｨｺ）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1. 背景及び目的

当 WG は超音波音場測定の規格を作成している。超音波音場測定は、医用超音波診断装置の音響的安全性を確保するために必須である。今回のメイントピックは、診断用超音波の出力指標 TI/MI の決定法 IEC 62359 Ed.2 案(87/394/CD, 87/395/INF)の審議である。IEC 62359 は超音波診断装置の個別安全規格 IEC 60601-2-37 Ed.2 の参照規格となっており、安全指標 TI/MI を超音波診断装置の画面上にリアルタイム表示することが IEC 60601-2-37 で要求されている。従って超音波診断装置メーカにとって重要な規格で影響が大きいため、日本意見を主張して妥当な内容にする。

2. 成果

87/394/CD に対して、日本の検討結果を内藤がプレゼンテーションした。日本からは①測定開始深さ 3mm が不適切なので現行に戻す②走査モードと非走査モードで共通な TI の公式のうち、過大評価になっている走査モードに補正を入れるよう修正③プローブの自己加熱は TI 式に入れないという 3 点を主に主張した。日本がシミュレーション・実験結果・現行の TI との数値比較を提示したことで、開始深さ 3mm の問題点が認識され、妥協案に落ち着いた。また北大工藤先生が日本超音波医学会安全性委員の医師の意見を紹介した。自己加熱が影響するのは表面付近のみで、安全性で問題になるのはむしろ体内深部での温度上昇という医学的見解により、TI 式に含めないことになった。しかし、日本提案の走査モードの TI 式は否定され、会議期間内に十分議論しつくせなかった。会議終了後も更に修正した式を日本から提案し、今後も妥当な規格になるよう継続的に日本意見を主張していく必要がある。

3. 問題点

TI 計算式変更による影響度合いの認識は、日本国内委員会と改訂原案作成者の間に大きな隔たりがある。87/394/CD の計算式では、TI の値が現在の値の数倍になる場合がある。TI の上限値の制御により送信電圧が現在よりも低下し、診断上必要な性能が得られなくなることが懸念される。送信条件、臨床用途によっては、装置ユーザー、患者が不利益を被ることになる。

4. 今後の予定

2008 年 10 月、IEC 62359ED2 の 3CD 配布までに、日本コメントを反映させるためのコンセンサス作りを継続する。次回の TC87 全体会議は、2009 年 4 月頃、韓国で予定されている。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／TC87-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 8 月 5 日

（報告者記載）予算番号：H20TC87②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：木下　博之　　報告書作成者氏名：　岸本　眞治　（会社名）日立メディコ

出席会議名(半角)	区　分	組織番号(TC/SC/TA)	TC87 (半角)
TC87/WG9	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称(日本語)	超音波 / パルスエコー超音波診断装置
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催　☒同時開催	
開　催　期　日	2008 年 6 月 23 日 ～ 2008 年 6 月 23 日		
開　催　場　所	（国名）チェコ	（都市名）プラハ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Peter Edmonds(アメリカ)	幹事国　英国	
参　加　国及び 参　加　人　数	9 ヶ国、主な国名 アメリカ、英国、ドイツ、イタリア、オランダ、韓国、ロシア、チェコ、日本、参加人数（25）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○岸本眞治（日立ﾒﾃﾞｨｺ）、 ○梅村晋一郎（東北大）、 内藤みわ（アロカ）、 山崎 聡(東芝ﾒﾃﾞｨｶﾙｼｽﾃﾑｽﾞ)、 内山 進（東芝ﾒﾃﾞｨｶﾙｼｽﾃﾑｽﾞ）、 工藤信樹（北大）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

超音波診断装置の性能規格　IEC 61391-2「システムの感度とダイナミックレンジ評価手法」のＣＤは、実験室レベルでの評価手法の色彩が濃く、製品評価には不向きであるため 日本は６件の修正を提案した。
その内の５件は同意を得たが、”組織ハーモニックイメージング”をスコープから除外する件は否決された。しかし CD に記載されているファントムが組織ハーモニック表示モードに対応可能か否かが重大問題である旨は理解を得て、今後継続検討し適合するファントムの組成や構造を Annex に記載する方針で合意した。なお策定 PJ リーダーの Zagzebski 教授から日本に CDV 作成への協力要請があり承諾した。

次に“超音波診断装置のディスプレイ装置規格”を IEC 61391-3 として NWIP 化する件をドイツの Dr.Kaarmann が概要説明した。現在策定中の、他のモダリティと共通の“IEC 62563-1 医療機器のディスプレイ装置規格-1, 評価手法”は超音波装置には不向きである旨説明し、超音波装置用に個別規格化する必要性を報告し NWIP に進める事とした。

さらに問題が多い、医療施設が機器の始業点検に用いるための技術仕様書案 IEC/TS 62558「自動データ収集と自動分析による画質判定手法」に対し、ファントムの組成や製造方法等の再現性も規定されておらず、IEC 規格および技術仕様書ドラフトとしては不十分である等々７件の修正提案したが、”仕様書案中に見られる現流製品の超音波装置名とシリアルナンバー記載を除去する指摘”以外全て拒絶された。今回は多数の不備を補うべく日本がコメント提出したが、“技術仕様書”であるため各国委員の関心が薄く審議が不活発であった。これを打開すべく指摘内容を具体的に説明し他国の理解を得て、ドイツの Dr.Kaarmann が 2nd CD 作成に参画し監視する事となった。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／TC87-③（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 8 月 5 日

（報告者記載）予算番号：H20TC87④

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：木下　博之　　報告書作成者氏名：　内山　進　（会社名）東芝メディカルシステムズ

出席会議名(半角)	区　分	組織番号(TC/SC/TA)	TC87 (半角)
TC87/WG14	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称(日本語)	超音波／超音波照射パラメータの測定
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催　☒同時開催	
開　催　期　日	2008 年 6 月 25 日 ～ 2008 年 6 月 25 日		
開　催　場　所	（国名）チェコ	（都市名）プラハ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Adam Shaw(英国)	幹事国　英国	
参　加　国及び 参　加　人　数	8 ヶ国、主な国名 アメリカ、英国、ドイツ、オランダ、イタリア、日本、参加人数（20）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○工藤信樹(北海道大学)、○内山 進(東芝メディカルシステムズ)、内藤みわ（アロカ）、梅村晋一郎(東北大学)、岸本眞治（日立メディコ）、山崎 聡（東芝メディカルシステムズ）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1．「超音波照射による温度上昇測定用試験ファントム」の課題解決手段として、昨年日本が提案した赤外線ビュワーによる超音波診断装置の音響照射による温度分布測定法に対し、今回、追試と本法の有効性を示す結果報告を行った。さらにオランダから、超音波診断装置と出力の大きい超音波温熱治療器を用いた追試が紹介された。これにより日本提案の赤外線熱画像による方法の有効性が確認できたため、IEC TS62306 に本法を取り入れたプロジェクトとして今後進めることが決まった。

2．超音波診断装置の個別安全規格 IEC60601-2-37 に診断用超音波の照射による熱作用のリスクマネジメントを求める記述がある。ただし記述のためのフォーマットについての言及が無いため、フォーマットと生体への影響評価指針作成を世界超音波医学会と協力の上起案し、テクニカルレポートとすることが決定した。

3．有限振幅超音波ビームの媒質中の照射推定に関する IEC TS61949:2007 の評価試験の報告が米国からあった。しかし、データの形式が異なるため日本が過去に行った報告との比較ができない。比較できる形式に直して次回 2009 年の韓国会議で審議することとなった。

4．その他
1）超音波照射と超音波プローブ自体の発熱による温度上昇を組み合わせての測定と評価は、新規プロジェクトとなる公算が強かったが、プローブ自体の発熱の影響は接触した体表面付近に限られるため深部への影響が無視できるため、追加検討は不要との結論となった。
2）超音波照射による生体内の温度上昇の新しい２種類の指標の導入が検討されている。この導入によって生体への熱的作用によるリスク評価をカバーするテクニカルレポートについては、次回の 2009 年の韓国会議で審議することとなった。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／TC93-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008年 6月 17日

（報告者記載）予算番号：H20T93②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：太田　光保　　報告書作成者氏名：　小島　智　（会社名）ＮＥＣシステムテクノロジー㈱

出席会議名(半角)	区　分	組織番号(TC/SC/TA)	TC93 (半角)
TC93/WG2	□ＴＣ □ＳＣ □ＴＡ ☒ＷＧ □ＰＴ □その他		
	□ＴＣ □ＳＣ □ＴＡ □ＷＧ □ＰＴ □その他	名　称(日本語)	デザインオートメーション
	□ＴＣ □ＳＣ □ＴＡ □ＷＧ □ＰＴ □その他		
	□ＴＣ □ＳＣ □ＴＡ □ＷＧ □ＰＴ □その他	☒単独開催　□同時開催	
開　催　期　日	2008 年 6 月 8 日 ～ 2008 年 6 月 12 日		
開　催　場　所	（国名）米国	（都市名）アナハイム市（カリフォルニア州）	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	WG2 ｺｺﾝﾍﾞﾅ：小島 智	幹事国　米国	
参　加　国及び 参　加　人　数	2ヶ国、主な国名 米国、日本、参加人数（3）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○小島智（ＮＥＣシステムテクノロジー）、河村薫（富士通ＭＬ）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

<背景>電子機器・部品の設計や試験の仕様記述言語、機能や環境データの流通方式、等の標準化ニーズが大。

<目的>TC93 が先行実施している IEC/IEEE ダブルロゴ標準手順の定着迅速化、エキスパート確保、活動活性化、等の課題認識を踏まえつつ、上記標準に対する日本のニーズ織込みを図る。

＜成果＞TC93 国内委員会は JEITA や JPCA 等の関連委員会と緊密な連携し活動展開している。特に WG2 国内活動は、JEITA EDA 技術専門委員会を中心に、小島特別委員が WG2 コ・コンビナとして国際標準化活動を推進すると同時に日本の意見反映をしている。

国際学会 DAC2008 に併設し WG2 会議を開催し、米国 WG2 コ・コンビナーの Brophy 氏他と９月開催のＴＣ９３会議アジェンダ及び IEEE とのデュアルロゴによる２００８年新規規格とメンテナンス規格の進捗を確認した。

新規規格：
- IEEE1076-2008 は、IEC61691-1-2 を予定。また、IEEE1076 の関連規格（1076.2、1076.3、1076.4 及び 1164）は、IEEE1076-2008 に統合される。
- IEEE1800-2007(SystemVerilog と VerilogHDL 統合)は、IEC61691-6-2 を予定。IEEE 規格化は 2009 年にシフトする見通し。
- IEEE1801(Power Format)は、IEC61523-4 を予定。

メンテナンス規格：
- IEEE1481-1999(DPC)は、IEC61523-1-2 を予定。
- IEEE1497-2001(SDF)は IEC61523-3-2 を予定。

次回は、９月にシンガポール開催の TC93 会議と併せて WG2 会議を予定。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／SC31-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 6 月 30 日

（報告者記載）予算番号：H20SC31③

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：本田　邦夫　報告書作成者氏名：　高井　弘光　（会社名）デンソーウェーブ

出席会議名(半角)	区　分	組織番号(TC/SC/TA)	SC31 (半角)
SC31/WG1 SC31/WG3	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	名　称(日本語)	自動認識及びデータ取得技術
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催　☒同時開催	

開　催　期　日	2008 年 5 月 21 日 ～ 2008 年 5 月 22 日	
開　催　場　所	（国名）日本	（都市名）横浜
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	WG1/S. Ackley, WG3/C. Barkan	幹事国　米国
参　加　国及び 参　加　人　数	3 ヶ国、主な国名 米国、英国、日本、参加人数（14）	
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 高井（デンソーW）、佐藤（JAISA）、武富（リコー）、宗像（ムナゾウ）、坂下（リンテック）、井出（リコー）、森田（METI）、川崎（松下）、小橋（JEITA）	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

１．概要

WG1：バーコードシンボル EAN/UPC の FCD 投票後のバロットレゾリューション会議（BRM）、QR コードの技術変更内容の審議等を行った。

WG3：2 位次元シンボルの印刷品質評価仕様の 5 年目の見直し、リライタブルハイブリッドメディア（RHM）の品質評価方法のワーキングドラフト（WD）作成に向けての審議が行われた。

２．内容

WG1：

・ISO/IEC 15420 （EAN/UPC）の FCD 投票後の BRM を電話での参加者 2 名を加えて開催。特に問題となったのは、クワイエットゾーン（QZ）の幅の規定が以前の UPC-A シンボルの規定と互換性が無い点である。出席者から、QZ の新たな判定基準が提案された。技術的な変更のため、再度 FCD 投票うことになった。

・ISO/IEC 18004（QR コード）の技術的修正レポートを作成し、投票へと進める。

・新たなプロジェクトエディタとして、データキャリア識別子及びコード 128 が Mr. Ackley、マイクロ PDF417 及び PDF417 を Mr. Schuessler が努めることになった。

WG3：

・ISO/IEC 15421 （バーコードマスターのテスト仕様）の CD 投票に関連して、日本から寸法許容差に関する問題点を提起した。この問題点は正式な BRM で審議される。

・ISO/IEC 15415 （2 次元シンボルの印刷品質評価仕様）の 5 年目の見直しを開始。

・日本提案の ISO/IEC 29133 （RHM の品質評価仕様）のワーキングドラフト作成に向けての議論を開始。今回は実際の RHM の消去、書込みデモを複数のプリンタで実施。また、活用事例をプレゼンすることで、RHM 技術に関する理解を得た。出席者からは、RHM に関する基本的な質問が出された。次回 WG3 会議までに AdHoc グループで議論を行い、今回出された意見への対応も含め、ワーキングドラフトを作成する。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

㈳電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／SC31-②（事務局記入）　　様式 9
国際標準化対応支援委員会　御中

提 出 日：	2008 年 6 月 30 日
予算番号：	H20SC31③

国際会議日本開催
経費収支報告書

1. 組　　織：　番　号　　SC31
　　名　称（日本語）　自動認識及びデータ取得技術
2. 会　　議　名：　SC31/WG1（データキャリア）、WG3（コンフォーマンス）（☐単独開催　☒同時開催）
　　☐TC　☐SC　☐TA　☒WG　☐PT　☐その他
3. 開 催 期 日：　2008 年 5 月 21 日 ～ 2008 年 5 月 22 日
4. 開 催 場 所：　横浜市（新横浜プリンスホテル）

単位:円

収入の部		支出の部	
科　目	金　額	科　目	金　額
国際標準化対応支援委員会	186,905 円	会議室料（JEITA 負担分）	100,000 円
JEITA・AIDC 委員会	280,358 円	会議室設備等	98,000 円
	円	ケータリング	55,700 円
	円	税・サービス料	75,533 円
	円	レセプション	138,030 円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
合計（a）	467,263 円	合計（b）	467,263 円
		（a）－（b）	0 円

補助限度額:［会議出席者数（日本人登録メンバー9 人＋外国人 5 人）］×会議開催日数 2 日×1.5 万円＝42 万 円

補助請求金額　186,905 円
［補助基準･運用規定の補助率（40 %）。上限は 300 万円。］

以上の通り報告致します。　　2008 年 6 月 30 日
申請責任者：　柴田　彰

※本報告書は、**(様式4)「国際会議報告書」**に添付して下さい。

（TSC-06 様式 2007.9）